

## ○質問番号1 市長公室関係

議席番号2 荒川中学校 石井 美樹 議員

食糧の備蓄について

食糧の備蓄について質問します。もしも、荒川などの川が増水して洪水になったら、指定避難所に避難することは洪水ハザードマップで知ることができました。しかし、学校が避難所の場合、どこに備蓄をしているのですか。また、地震や洪水の時に、その他の避難所の場合もどこに備蓄をしているのですか。お聞かせください。

議席番号19 三尻中学校 田沼 里佳子 議員

災害時での支援物資受入について

昨年3月11日に東北でとても大きな震災がありました。被災地の避難場所では、毎日支援物資を必要としている方々の姿をニュースで見っていました。そこで、熊谷市でも同じような地震が起きた時、支援物資がスムーズに届くのかと心配になりました。熊谷市では、支援物資をスムーズに受け入れるための対策は、何かありますか。また、熊谷市では支援物資として、どのような物資を送ったのですか。特産品などは送ったのですか。

議席番号20 三尻中学校 鈴木 皇貴 議員

熊谷市の危機管理体制について

東日本大震災によって、この熊谷市も震度5弱という揺れでした。

そこで、この熊谷市の避難場所の配置や危険度をハザードマップで調べてみました。その結果、多くの一時・補助広域避難場所が設置されているのが分かったのですが、その分布の比率や用途の割合が現在の人口分布と見合っているのが疑問に思いました。

今回の大地震や津波・洪水などの大きな天災を経験し、より実用的な危機管理体制の構築と自治会を活用した実質的な活動の整備の見直しが必要かと思いました。熊谷市としては、今後の対策や方針など計画しているものがあれば教えてください。

(市長答弁)

石井美樹議員さん、田沼里佳子議員さん、鈴木皇貴議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは副市長及び担当部長からお答えします。

始めに、石井さんの「食糧の備蓄について」ですが、熊谷市では、災害に備え、避難者数を想定した食糧や生活必需品を備蓄し、被災された方が安全にしかもできるだけ不便のないような避難生活を送れるよう、速やかな避難所の開設に併せて、必要な物資を供給できる体制を整えています。

乳児からお年寄りまで、それぞれの年齢層の方々に対応できるよう、これからも備蓄品の種類や数量を充実させていきます。

次に、田沼さんの「災害時での支援物資受入について」ですが、熊谷市では、これまでに市外から支援物資を受け入れるような災害に見舞われたことはありませんが、いつ、どのような規模で発生するのか予想できないのが災害です。そのため、集配所の開設を始め、集配所における人員の確保や班編成など、支援物資の受入れ体制を「熊谷市地域防災計画」に定め、災害に備えています。また、大規模な災害が発生した場合には、多くの方々の協力が必要となりますので、ボラン

ティアをお願いすることも想定しています。今回の震災では、市民皆様から心温まる生活物資の提供をいただき、被災地へお送りしましたが、物資の仕分け作業などにボランティアの方のご協力をいただきました。支援が必要な時には、是非ともボランティアとしてお手伝いくださるようお願いいたします。

次に、鈴木さんの「熊谷市の危機管理体制について」ですが、東日本大震災は、国内観測史上最大の規模で、これまでにない被災への対応が求められました。その経験を今後に生かすため、国や県、市町村がともに防災計画の見直し作業を行っており、熊谷市でも小中学校施設の防災機能の充実や性別・年齢に配慮した避難所の運営など、地域防災計画の見直しを進めています。また、阪神淡路大震災以降、「自分たちの地域は、自分たちで守る」という地域の防災体制が重要視されていることから市では、自治会を中心とした自主防災組織の設立や防災訓練などに支援を行うことにより地域防災力の向上に努めています。

これからも自主防災組織の設立や活動を支援していくとともに、実効性の高い地域防災計画の見直しにより、市民皆様の安心安全を確保していきます。

### (室長答弁)

石井美樹議員さんの「食糧の備蓄について」にお答えします。

学校が避難所の場合の備蓄場所については、避難所に指定している、熊谷東中学校、吉岡中学校の両校と熊谷西高校それぞれの敷地内に防災倉庫を設置し、食糧品や水、生活用品や救助用具などを備蓄しています。

また、これら3箇所の防災倉庫については、生徒皆さんの学校生活に支障にならず、いざという災害時に備蓄品を搬送しやすい場所を選定して設置しています。

次に、学校以外の避難所の備蓄場所についてですが、熊谷市では、市内を8地区に分け、141箇所の避難所を指定しているほか、学校以外の市有施設5箇所に防災倉庫を設置しています。この他に、災害対策の拠点となる市役所の本庁舎の敷地内にも防災倉庫を設置していますので、災害発生時には、中学校、高校に設けてある3箇所の防災倉庫を含め、市内9箇所の防災倉庫から、開設した各避難所に食糧品などの備蓄品を搬送することになります。

また、東日本大震災が発生した3月11日から12日にかけては、首都圏を中心に交通機関が運休し、熊谷市内でも熊谷駅、籠原駅の利用者や新幹線の乗客など、約700人の方が帰宅できなくなったことから、一時的な待機場所を「さくらめいと」に設置し、帰宅困難者の受入を行っています。

このように、大規模災害発生時には、家族の方が仕事先や外出先から帰宅できない場合も考えられますので、家庭で孤立することのないよう生徒の皆さんが学校に泊まることも想定した備蓄品の供給についても検討しています。

### (室長答弁)

田沼里佳子議員さんの「災害時での支援物資受入について」にお答えします。最初に、支援物資をスムーズに受入れるための対策についてですが、支援物資の受入れには、物資を配分する作業や各避難所への輸送が必要となります。そのため、被災状況に応じ、幹線道路にアクセスが便利な旧市立女子高校体育館や、熊谷勤労者体育館、立正大学体育館を順次、物資集配所として開設し、物流業者やボランティアの方々の協力をいただきながら、支援物資をスムーズに被災

者へ届けることができるよう、熊谷市地域防災計画においてその受入体制を定めています。

次に、東日本大震災に際し、熊谷市が被災地へ送った支援物資についてですが、市の備蓄品の乾パンやアルファ米などの食料や紙オムツのほか、市民の皆様から提供いただいた生活物資や自転車を多くのボランティアの方々の協力をいただきながら、宮城県多賀城市を始め 12 市に搬送することができました。なお、熊谷の特産品の送付については、被災した自治体から要望のあった生活物資の搬送を優先し、熊谷の特産品は送ってはいませんが、被災地の復旧・復興に寄せる熊谷市民皆様の熱い思いを込めてその時々必要とされた支援物資を被災地にお届けしたところです。

### **(副市長答弁)**

鈴木皇貴議員さんの「熊谷市の危機管理体制について」にお答えします。最初に「熊谷市の避難場所について」ですが、熊谷市では、地震発生時の火災や建物の倒壊などいざという災害に備え、住宅が密集する市街地を中心に地震直後の避難場所として、公園や広場などを、一時避難場所や広域避難場所に指定しています。また、市内一円の避難施設については、建物の強度による安全性や生活するための利便性などを充足している既存施設の中から、設備や地域ごとの人口分布を考慮して、小学校を指定避難所、中学校や公民館、保育所や集会所などを補助避難所と位置づけています。

なお、補助避難所については、避難者数が指定避難所の受入れ能力を超えるような場合に開設し、避難者の安全を確保しています。

是非、日頃から家庭や地域で避難経路について決めておき、災害が起きてから慌てることのないようにすることが大切ですので、鈴木さんも家族とよく話し合ってみてください。

次に、自治会を主体とした自主防災組織については、熊谷市では 176 団体、組織率が約 52%で、震災以降、10%近くも組織率が向上しています。市では、引き続き自主防災組織の新規設立に向け、自治会等への働きかけや防災訓練への支援を行うことにより、組織率の向上と地域防災力の充実・強化を図っていきます。また、実用的な危機管理体制の構築には、熊谷市地域防災計画を実効性のあるものとして、早期に見直すことが、何よりも重要と考えます。このようなことから、東日本大震災やこれまでの風水害を教訓として、実効性の高い地域防災計画の見直し作業や手続を急いでいます。

○質問番号2 総合政策部関係

議席番号13 中条中学校 佐藤 一樹 議員

熊谷の夏を涼しく乗り切る活動について

僕は、熊谷の夏を涼しく乗り切る活動について聞きたいと思います。

なぜかという、昨年は、東日本大震災で節電することがとても大事になってきていると思います。しかし、熊谷の夏は暑く、「あついぞ！熊谷」やテレビで、時々「あついぞ！熊谷」のキャラクターあつべえを見たりします。そこで、熊谷市では、電気をなるべく使わずに、よりよく涼しくすごせるための活動は、どのようなことをしているのですか。お聞かせください。

議席番号29 妻沼西中学校 内田 裕太 議員

ゆうゆうバスについて

僕は、市内を循環しているゆうゆうバスについて質問します。

僕は、このバスを利用したことがあります。以前利用したときに本数が少なく、バスが1周するのにとても時間がかかることに気付きました。また、高齢者の方々も多く利用していて、そのためゆっくり走っているの、時間がかかることが分かりました。

そこで、僕は、ゆうゆうバスの本数をできるなら増やして、時間なるべくかからないようにしてほしいです。そうすれば、乗りたい時に乗ることができるので、よりスムーズになると思います。僕たち中学生は、部活動で市内の中学校へ練習試合に行く時、親に送迎をしてもらっているの、親が大変にならないよう、自分で現地に行けるように、運行時間を早めたり、本数を増やしてほしいです。そのようなことは可能でしょうか。教えてください。

議席番号31 江南中学校 赤津 真緒 議員

「あついぞ！熊谷」について

熊谷の夏の暑さを逆手にとり、貴重な地域資源としてプラスにとらえ、みんなが暑さを楽しみながら積極的にまちづくりに活かしている「あついぞ！熊谷」は、全国に広まっています。いろいろなイベントやコンサート、新商品開発などで、大きく盛り上がり、熊谷市民として、嬉しく思います。やはり、熊谷駅前や八木橋がテレビに出ると、いつも以上によく見てしまいます。そこで、全国発信されている「あついぞ！熊谷」の一員として、何かできることがあれば、教えてください。

また、暑さを楽しむことで具体的なもの、もしくは、中学校としてできることがあれば、お聞かせください。

(市長答弁)

佐藤一樹議員さん、内田裕太議員さん、赤津真緒議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、担当部長からお答えします。

はじめに、佐藤さんからの「熊谷の夏を涼しく乗り切る活動について」ですが、平成19年8月16日に国内最高気温の40.9℃を観測してから全国的に熊谷市の知名度が上がりました。現在、熊谷市の総合振興計画のなかで「あつさはればれ熊谷流」プロジェクトとして位置付けをし、熊谷流の、夏を涼しく乗り切る活動に取り組んでいます。

具体的には、平成 22 年は、熊谷市の猛暑日日数が 41 日間もあり、熱中症にかかる方も多かったことから、職員による「暑さ対策プロジェクトチーム」を結成し、街を涼しくする取り組みを検討し、昨年、熊谷駅正面口と南口に、清涼感のある絵画シールを階段に貼り付けた「涼しさ体感アート」事業など 5 つの新規事業を実施しました。

「日本一暑いまち」として知られる熊谷市だからこそ、さらに先端的で効果的な「暑さ対策」を推進していきます。

次に、内田さんから「ゆうゆうバス」について質問をいただきました。ゆうゆうバスは、民間のバス会社が市からの補助を受けて、一般の路線バスとは異なるルートを安い運賃で運行し、毎年、16 万人余りの皆さんに御利用いただいています。ゆうゆうバスをはじめ、民間の路線バスなどの公共交通は、便利で機能的なまちづくりや市民生活のために大切な移動手段であり、行き過ぎた自動車利用の抑制につながることから、環境対策の点からも効果があると考えています。こうしたことから、昨年 10 月には、江南地区と熊谷駅周辺に新しい路線を開設し、また、今までの路線についても、経路の延長や新しい停留所の設置などの見直しを行い、ゆうゆうバスの充実を行いました。

続きまして、赤津さんからは「あついぞ！熊谷」について「何かやりたい」という心強いお申し出をいただきました。「あついぞ！熊谷」は、市民、企業など、皆様の「熱い気持ち」や「厚いおもてなし」など、色々な「あつさ」をキーワードとして、地域の活性化と情報の発信性を高めていくものです。「熊谷市の盛り上がり全国発信されて嬉しい」「あついぞ！熊谷に取り組みたい」という、その気持ちこそが「あついぞ！熊谷」の原点であり、熊谷市を盛り上げるエネルギーとなります。学校のお友達や家族と一緒に色々なアイデアを考えていただき、楽しい「あついぞ！熊谷」を市に提案していただきたいと考えています。

#### (部長答弁)

佐藤一樹議員さんの「熊谷の夏を涼しく乗り切る活動について」にお答えします。

これまで熊谷市では、熊谷駅前の冷却ミスト装置の設置、建物の壁面緑化、屋根や道路の熱を遮る塗装や舗装、うちわや扇子の作製などを行ってきました。昨年には、若い職員を中心として結成された「暑さ対策プロジェクトチーム」が企画した、新たな暑さ対策事業を実施しました。

まず、熊谷市内の涼しさを感じられる場所を選び、地図で示した「クールスポットマップ」を作成しました。水や緑、木陰がある場所を中心に PR し、外に出て涼しさを感じ、さらに節電にもつながるというものです。他にも、「涼しさ体感アート事業」を実施しました。これは、市内の様々な場所に涼しさをテーマとしたアート作品を展示し、見た人が、視覚的、聴覚的效果によって涼しい気分になるという取り組みです。小学生から高齢者まで、多くの市民の方に作品を出していただきました。

また、熊谷駅の正面口と南口には、清涼感のある絵画をシールにして貼り付けた「階段アート」を実施しました。佐藤さんは、金魚や滝の絵をご覧になったでしょうか。

このように、熊谷市では夏を涼しく乗り切る様々な取り組みを実施していますが、今年の夏に向けて、一層の緑化の推進を図るなど、新たな企画も検討していきたいと考えておりますので、アイデアがありましたら是非ご提案ください。

**(部長答弁)**

内田裕太議員さんの「ゆうゆうバスについて」にお答えします。はじめに「ゆうゆうバスの時間がかからないようにすることはできますか？」という質問ですが、妻沼地区を運行しているゆうゆうバスは、妻沼行政センターを出発し、再びセンターへ戻るまでに約2時間40分かかっています。これは、ゆうゆうバスが、民間路線バスや電車と違い、広い地域に対して、きめ細かく移動手段を提供している、という特徴があるためです。

次に、「運行本数を増やすことはできますか？」との質問ですが、昨年度は、ゆうゆうバスの全路線の合計で約16万7,000人と、多くの方に御利用いただいたところです。しかしながら、運賃を100円と安く設定しているため、収入は少なく、昨年度、市はバス事業者に約4,200万円を補助し、更に、今年度は、新しい路線の運行を開始したため、バス購入費も含め、約9,000万円の予算を用意しています。

ゆうゆうバスは、学生や高齢者の移動手段として重要な役割を担っていますが、運行本数を増やした場合、市の費用負担が大きくなるため、利便性と費用負担とのバランスを考えながらこれからも、より利用しやすいものとなるよう研究していきたいと考えています。

**(部長答弁)**

赤津真緒議員さんの「あついぞ！熊谷について」にお答えします。市では、様々な「あつさ」をキーワードにした夏の取組みについて、「冠エントリー事業」としてリーフレットにまとめています。リーフレットを活用し情報発信を行っていることもあり、昨年は、市で把握している限り、テレビ等で35回取り上げられました。

質問の「あついぞ！熊谷」の取組みや、暑さを楽しむことについては、例えば、「熱中症予防」を地域の皆さんに呼びかけたり、商品化を目標にカキ氷「雪くま」のレシピを考えたり、また、市外のお友達や親戚の方に、熊谷市の夏のグルメやお祭など、楽しい情報を教えてあげることも、小さな事ですが、大切な取組みです。また、市の「U-18少年熱中大使」事業は、18歳以下の方がスポーツや文化の県大会等に出場する場合、プレミアム版の「あついぞ！熊谷」Tシャツをお贈りしており、そのTシャツを大会の会場で着ていただくことで、「あついぞ！熊谷」をPRするものです。

皆さんにもチャンスがありますので、運動や文化活動に一生懸命取り組んでいただきたいと思います。

「あついぞ！熊谷」の取組みの良いところは、熊谷市を想う気持ちとアイデアがあれば、誰でも参加をすることができる、ということだと考えています。赤津さん、ぜひ、みんなで話し合っ、アイデアと夢の詰まった「あついぞ！熊谷」の提案等を市にいただければ、検討していきたいと思っています。

○質問番号3 総合政策部関係

議席番号22 奈良中学校 平山 隼人 議員

ラグビータウンとしての取組みについて

僕はラグビー部に所属しています。この熊谷市をラグビータウンとして、さらに全国に名を広め、もっと多くの人々がラグビーをしてほしいと思い質問します。

僕は熊谷市のラグビータウンとしての取組みについて知りたいと思います。熊谷市のラグビーについての取組みとラグビーに関連する施設には何があるのか、また今後取り組んでいく計画があるのか教えて下さい。

また、2019年に開催されるラグビーワールドカップの熊谷市への招致について質問します。僕は、2019年に熊谷市でラグビーワールドカップを開催してほしいと思っています。熊谷市で開催するために、選手の育成や会場誘致、宿泊施設、交通整備等どのような取組みを行っているのか、計画があるのかについて教えていただきたいと思います。

議席番号32 江南中学校 関口 愛香 議員

姉妹都市インバーカーギル市について

インバーカーギル市は、熊谷市唯一の姉妹都市として、熊谷市にある高校や大学が交流をしていると見たことがあります。また、インバーカーギル市には、クイーンズパークやサウスランド美術館など、見どころがたくさんあると聞きました。

英語の授業などで国際化が進み、日本語と英語はつかえて当たり前の社会が近づいているという話もあります。私たち中学生がインバーカーギル市との交流をする取組みはあるのでしょうか。あるのであれば、ぜひ教えてください。

(市長答弁)

平山隼人議員さん、関口愛香議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、担当部長からお答えします。

始めに、平山さんの「ラグビータウンとしての取組みについて」にお答えします。熊谷市は古くからラグビーが盛んな土地柄で、平成3年の県営熊谷ラグビー場の完成をきっかけに、ラグビーを通したまちづくりに取組み、「ラグビー熊谷」として市イメージアップを図ってきました。熊谷ラグビー場は、大学ラグビーの公式戦をはじめ、国内最高レベルの試合が毎年行われており、特に全国高校選抜ラグビー大会は、「西の花園」に並ぶ「東のラグビーの聖地」として高校生の目標となる大会になっています。また、2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップは、熊谷の名前を全国、そして、世界に発信するよい機会ですので、新たに、ラグビーワールドカップ招致室を作り、埼玉県ラグビー協会などと協力して現在、招致活動に取り組んでいます。7年後にはぜひみなさんの中からこのラグビーワールドカップに日本代表として出てほしいです。

次に、関口さんの「姉妹都インバーカーギル市について」にお答えします。本市とインバーカーギル市は、平成5年に、姉妹都市提携を結び、現在まで、中・高生のホームステイをはじめ、市民レベルのさまざまな交流が行われています。昨年10月に、インバーカーギル市から、市長さんをはじめとした訪問

団が本市を訪れた際には、インバーカーギル市で3試合開催された、ラグビーワールドカップの試合の様子などについてお話を伺うことができました。こうした交流を通して、早くから、外国の文化に触れ、国際社会の一員としての自覚を持つことは、21世紀を担う若者にとって、とても大切なことであり、それは、ふるさとである熊谷市を見つめ直すことにもつながります。平山さん、関口さんには、生まれ育った熊谷市を大切にいただきながら、世界に羽ばたく国際人になってほしいと思います。熊谷市が生んだ大先輩であります石坂養平先生が残した言葉に「世界を小とせよ」という言葉があります。世界を小さく感じるような国際人になってほしいと願ってやみません。

#### (部長答弁)

平山隼人議員さんの「ラグビータウンとしての取組みについて」にお答えします。

市内には、熊谷ラグビー場のほか荒川の河川敷に市営のラグビー場があり、この2つの施設を中心に、様々なラグビー行事が行われています。熊谷市の取組みの状況ですが、ラグビースクールや、タグラグビー大会などを開催し、小さい時からラグビーに親しむ機会を作っているほか、全国高校選抜ラグビー大会や社会人のトップリーグ、そして、大学ラグビーの公式戦など国内のトップレベルの試合を多く行い、たくさんの方々にラグビーの楽しさを味わっていただいています。選手の育成は、埼玉県ラグビー協会と連携し、練習会や合宿を行っており、高校の指導者から、中学生や顧問の先生方も指導を受け、一層のレベルアップを図っています。また、2019年のラグビーワールドカップは、日本で開催されることは決まっていますが、今のところ、宿泊や交通のことも含めて、試合開催のための具体的な条件がはっきりしていません。これからも、日本ラグビー協会やラグビーワールドカップ組織委員会からいろいろな情報を集めて、熊谷で試合が実現するように、市民皆さんの御協力をいただきながら、招致活動を進めていきたいと考えています。

#### (部長答弁)

関口愛香議員さんの「姉妹都市インバーカーギル市について」にお答えします。

インバーカーギル市は、スコットランド風の町並みがとても美しく、豊かな自然と文化に育まれた伝統のある都市です。博物館には、トゥアタラと呼ばれる大きなトカゲに似た、原始的な爬虫類も飼育されています。中学生が交流する機会としては、平成5年に、姉妹都市提携をしてから、ほぼ毎年、熊谷市国際交流協会が、中高生ホームステイを実施しています。昨年は、大震災の影響で中止となりましたが、平成22年度は17名が参加し、そのうち中学生は11名で、これまでも160名以上の中学生がインバーカーギル市での生活を体験しています。平成24年度も、このツアーを実施する予定です。また、市内の3つの高校が、インバカーギル市の高校と姉妹校提携をし、生徒の相互派遣を行っています。この派遣で、熊谷市を訪れたインバーカーギル市の高校生などが、市内の中学校を訪問するなどの交流も行っています。こうした取組みは、中学生の皆さんが国際感覚を身に着ける貴重な場であり、これからも実施していき

いと考えていますので、機会があれば参加してみてください。

#### ○質問番号4 総務部関係

議席番号10 玉井中学校 眞下 里沙 議員

##### 土地活用について

私が住んでいる近くの熊谷市別府に広大な土地があります。私が生まれたときからあります。私はここに図書館があってほしいと思います。なぜかという、熊谷図書館は自宅から遠く、中学生だけで行くのには遠いです。また図書館自体が小さく、駐車スペースも少ないです。近くにゆったりとした雰囲気のある図書館があるといいなと思うのですが、今後の土地活用はどうなっているのでしょうか。お聞かせください。

##### (市長答弁)

眞下里沙議員さんからの質問に私から全般的にお答えをし、詳しくは担当部長からお答えします。

眞下さんからお話のあった別府の土地は、昭和50年頃に、古くなった別府小学校を建設するための予定地として、熊谷市が購入したものです。その後、土地区画整理事業が進んだことなどで、別府地区の人口が増え、将来の児童数などを考えると、この土地では小学校の敷地としては狭いことなどから、計画を変更し、別府小学校は昭和62年に現在の場所へ移転しました。この土地は、法律により、住みよい住環境を守るための地域として位置づけられています。このため、この土地については、熊谷市の特色を生かした環境にやさしい住宅用地として活用できないか、現在、検討しています。眞下さんのように、本に興味を持ち、読書を習慣化することは、自分の生き方や考え方を養うために、とても大切なことです。そこで熊谷市では、眞下さんのように市立図書館からちょっと遠い皆さんが少しでも利用しやすくなるように、借りたい本の予約などがインターネットでできるように、また、本の返却は、例えば近くの籠原駅連絡所に設置してあるポストで済むような工夫などもしています。そうしたサービスなども利用していただきながら、是非、本に触れ合う機会を増やしていただければと思います。

##### (部長答弁)

眞下里沙議員さんの「土地活用について」お答えします。

ただいま市長がお答えしたように別府5丁目の公共用地は、昭和50年から53年にかけて、小学校の建設予定地として熊谷市が購入したもので、面積は18596.5㎡で、この広さは、例えば眞下さんが現在通っている玉井中学校の校庭の面積と、ほぼ同じ広さになります。別府小学校が、現在の場所へ移転して以来、この土地の活用方法が決まるまでの間の利用として、熊谷市の公共事業で発生する残土の仮置き場などに一時的に使用するなどしながら管理してきました。この土地は、都市計画法という法律で、住みよい環境を守るために、建物の高さなどにも制限がされている第一種低層住居専用地域という地域に位置づけられているものです。

そこで、この土地については、例えば、自然エネルギーなどを取り入れた住宅用地として活用できないかといった検討を進めております。

## ○質問番号5 市民部関係

議席番号3 富士見中学校 大嶋 真衣 議員  
交通安全教室の実施について

最近、熊谷市でも交通事故が多発しています。私も最近、自転車に乗っていて自動車と接触しそうになりました。交通事故は、暗くなってから起こることが多いと思います。九月くらいになると、日が沈むのがだんだん早くなるので、塾に行く小学生や中学生が危険だと思います。それなので、一年に一度、交通安全教室を実施するのではなく、定期的を実施するのはどうでしょうか。

議席番号11 大麻生中学校 長谷部 敦 議員  
街灯の設置について

秋から冬にかけて通学路が非常に暗くなります。熊谷市でも不審者情報をよく耳にします。街灯がない所を一人で通るのはもちろん、友達と通る時でもとても不安になります。大麻生地区では畑や田んぼが多いため、農道を通らなくてはならない通学路もあります。登下校時の僕たちの安全のためにも通学路の街灯の設置、今後の設置計画について教えてください。

議席番号15 吉岡中学校 青木 海将 議員  
熱中症レベルについて

吉岡中学校では熱中症レベルが5になって外の運動が禁止されたことがありました。また、熱中症で体調が悪くなった生徒もいました。

そこで、市内で熱中症レベルが高い地域の分布を教えてください。  
昨年夏、市内の小中学校で、熱中症にかかった人数を教えてください。  
今年は中学2年生を対象とし、「熱中症対策講座」が開かれましたが、今後の市の対策について教えてください。

議席番号21 奈良中学校 酒井 尋花 議員  
熊谷駅自転車駐車場について

私は駅の自転車駐車場を大きく、そして無料にしてほしいと思います。なぜなら、駅にたくさんの放置自転車があり、点字ブロックを隠してしまっているからです。また、通行人のじゃまになっています。  
いろいろな安全を考えても、自転車駐車場を大きくし、たくさんの人が利用できるようにするのはどうでしょうか。

### (市長答弁)

大嶋真衣議員さん、長谷部敦議員さん、青木海将議員さん、酒井尋花議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

はじめに大嶋さんの「交通安全教室の実施について」ですが、熊谷市では、熊谷警察署や交通安全の活動をしている団体と協力して、交通事故防止のため、様々な交通安全事業に取り組んでいます。その一つであります、交通安全教室は、小中学生をはじめ、幼児から高齢者までを対象に、交通指導員さんが中心となって実施しています。昨年の熊谷市の人身事故件数は、前年と比べ少なくなっていますが、依然として、事故がなくなる状況であり、5名の尊い命が犠牲となっていることから、引き続き、交通安全教室を効果的に、実施してまいりたいと考えておりますので、皆さんも、交通安全教室で覚えた交通ルールやマナーを守って、交通安全を心掛けてください。

次に長谷部さんの「街灯の設置について」ですが、熊谷市では市民が安心して暮らせる街づくりを目指し、様々な事業に取り組んでいます。その一つとして、犯罪を防止するため、暗くて危険な場所に防犯灯と呼ばれる街灯を設置しています。防犯灯の設置については、「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを基本に、原則として地域の自治会にお願いし、熊谷市は設置費用に対して、補助金を交付する方法で、自治会を支援していますので、これからも地域と熊谷市が協働して取り組んでいきたいと考えています。

次に青木さんの「熱中症レベルについて」ですが、熊谷市では、平成19年8月に国内最高気温40.9度を記録したのを契機に、日本気象協会と提携し、全国で初めての「熱中症予防情報発信システム」を導入しています。皆さんは、このシステムによる熱中症予防指標ランクの情報を、学校や家庭での熱中症予防に役立てるとともに、水分補給などを行い、熱中症にならないようにしてください。なお、熊谷市では、熱中症の対策に積極的に取り組み、暑さ日本一のまちから、暑さ対策日本一の熊谷を全国に発信していきたいと考えています。

次に酒井さんの「熊谷駅自転車駐車場について」ですが、放置された自転車が歩行者にとって、障害物となっていることから、熊谷市では、駅周辺の放置自転車対策として、自転車放置整理区域を設定し、歩道等に放置された自転車を、定期的に撤去しています。また、通学や通勤などで熊谷駅等を利用する方をはじめ、自転車を利用する皆さんが駐車できるようにするため、熊谷駅に有料の自転車駐車場を設置し、その後、できるだけ多くの方が駐車できるよう駐車場を拡張いたしました。更に、駅から少し離れた場所ですが、無料の自転車駐車場を設置していますのでこれらをぜひ利用してください。

### (部長答弁)

大嶋 真衣議員さんの「交通安全教室の実施について」にお答えします。熊谷市では、幼児から高齢者まで幅広い皆さんを対象に、正しい交通ルールと交通マナーを身につけることを目的として、交通安全教室や年間4回の交通安全運動を実施し、交通事故の防止、減少に努めています。大嶋さんの質問であります交通安全教室は、幼稚園や保育園・小学1年生には、道路の渡り方などの歩行指導、小学3・4年生や中学生等には、正しい自転車の運転指導を実施しています。また、高齢者の皆さんに対しては、ビデオでの講習を中心に実施し、昨年は、交通安全教室を77回開催し、11,832人が参加しています。

小・中学校での交通安全教室は、各学校からの希望を受け実施していますが、授業をはじめ各行事等との関係もありますので、開催時期や回数については、各学校と相談していきたいと考えています。

**(部長答弁)**

長谷部 敦 議員さんの「街灯の設置について」にお答えします。熊谷市では、毎年新規に 200 基以上の防犯灯を設置しており、現在、熊谷市内には、約 1 万 5 千基の防犯灯が設置されています。設置については、地域の状況を良く知っている、自治会にお願いしており、熊谷市では、設置費用の 2 分の 1 を限度に、自治会へ補助金を交付しています。また、民家が少なく、自治会に設置してもらうことが適当でない場所や、通学路については、現地調査を実施し、熊谷市で設置することもあります。下校時に暗くて危険と感じるような場所は、できる限り少なくする必要がありますので、そのような場所がある場合は、保護者を通じて、自治会の役員の方や学校の先生などに、防犯灯の設置について相談をしてください。なお、長谷部さんへのお願いですが、防犯灯が設置された場所は、明るく防犯効果が高くなります。

しかし、頼りすぎると危険ですので、自分に降りかかる危険を未然に防ぐためにも、防犯ブザーを携帯したり、友達と一緒に帰るなどの心がけもお願いします。

**(部長答弁)**

青木 海将議員さんの「熱中症レベルについて」にお答えします。熊谷市熱中症予防情報発信システムは、市役所や市内 30 の小学校の気温や湿度などの測定データを基に、収集・解析システムを利用して、熱中症予防指標の予測を行い、測定時の指標ランク（5 段階）とその後の予測を、市のホームページに掲載するほか、希望者の携帯電話に情報提供するものです。はじめに、市内で熱中症指標ランクの高い地域の分布ですが、指標ランクが最も高い 5 の「危険」は、昨年の 7 月から 9 月までの 92 日間で籠原小学校区が 34 日で最も多く、次いで、星宮小学校区、熊谷西小学校区、吉岡小学校区の 3 校区が 27 日となっています。

次に、市内の小中学校で熱中症にかかった人数ですが、部活動等も含めると昨年は、中学生 9 人が救急車で搬送されています。また、熊谷市では、様々な暑さ対策を実施しておりますが、その内、熱中症対策としては、市の職員で構成する暑さ対策プロジェクトチームが立案した、「中学生の熱中症対策講座」のほか、暑さで気分が悪くなった方に、公民館等で休息できる「まちなかオアシス事業」や、一人暮らしの高齢者と全ての小学生にクールスカーフを配布する「熱中症予防グッズ配布事業」、暑さ対策の CM を製作し、映画館等で上映する「PR 事業」なども実施しました。これからも、市民や職員からの提案を参考に、新たな熱中症対策を検討してまいります。

**(部長答弁)**

酒井 尋花議員さんの「熊谷駅自転車駐車場について」にお答えします。熊谷駅周辺には、少しの時間なら、みんなが置いているからなど、安易な気持ちで放置された自転車は、歩道をふさぐなど、お年寄りや体の不自由な方をはじめ歩行者にとって、危険な障害物となっています。熊谷市では、誰もが安心して歩道を通行できるよう、放置された自転車を定期的に撤去し、他の場所で保管して返還しています。熊谷駅自転車駐車場は、放置自転車を無くすため、

昭和58年にJR東日本から新幹線の高架下を借りて設置しました。その後、利用者の増加により、1階部分の面積を増やすとともに、2階にも駐車できるようにして、収容台数を増やしてきました。現在の収容可能台数は、約3300台であり、まだ駐車できる空きスペースがあります。また、熊谷駅自転車駐車を維持するためには、JR東日本への施設借上料の支払いや、安心して利用していただくための管理費など、多くの費用が掛かっていますので、自転車が1日100円、通学の場合、月額1500円の使用料をいただいております。無料とすることは、難しいと考えています。

なお、駅から少し離れた場所には、無料の自転車駐車を設置していますのでぜひご利用ください。

## ○質問番号6 福祉部関係

議席番号28 妻沼東中学校 青木 慎弥 議員  
高齢者の施設について

今の時代は高齢化社会で高齢者の方々の割合が増えています。その中には、障害を抱えていて、介護が必要な人もたくさんいます。そして、施設に入りたくても空きがなく、困っている方もいます。そこで、そういった方々のための施設を増やすことはできないでしょうか。

### (市長答弁)

青木慎弥議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、担当部長からお答えします。青木さんからは、高齢社会が抱えている課題についての質問をいただきました。現在、市民の5人に1人が65歳以上の高齢者です。熊谷市では、「いきいきあんしん 元気で長寿のまち くまがや」の実現を目指して、高齢者の皆さんが、元気に、健康で生きがいを持って暮らせるよう、様々な事業に取り組んでいます。介護が必要な方のための施設を造ったり、また、その施設を運営していくためには、利用する方に、費用を負担していただくだけでなく、たくさんの方々の理解と、協力が欠かせません。これからも、施設を必要としている方と、それを支える立場の方の意見を聞きながら、バランスの取れた仕組みとなるよう心がけていきます。

### (部長答弁)

青木慎弥議員さんの「高齢者の施設について」お答えします。人口に占める65歳以上の方の割合を、「高齢化率」といいますが、青木さんが生まれた頃の、日本の高齢化率は約16%で、現在は約23%となっています。また、熊谷市の65歳以上の高齢者は12月1日現在で44,968人、人口の22.01%、約5人に1人が高齢者となり、これからも高齢化率は上昇していく傾向にあります。このように、高齢者の方が増えていくと、これに比例して、寝たきりになったり、施設に入る方も増えていくことになると思われます。これらの状況に備えるため、国は平成12年に、社会全体で高齢者やその家族を支えるため、介護保険制度をつくりました。現在、熊谷市内には、特別養護老人ホームなど、高齢者を対象とした9種類45の施設があり、ここでは、およそ3,000人の

方が暮らすことができます。

そして、これらの施設を建設したり、施設で暮らす高齢者のお世話をしたりするために、多額の費用が必要となっています。これからは、高齢者が生まれ育った地域で、安心して暮らせるよう、家庭と施設でそれぞれ利用できる介護サービスの充実や、また買い物に同行したり、家の掃除や庭木の手入れなど、お互いに助け合い暮らしていけるような、仕組みづくりを考えるとともに、施設の整備も検討していかなければならないと考えています。

### ○質問番号7 環境部関係

議席番号7 熊谷東中学校 梅澤 盛佳 議員

#### ムサシトミヨの保護について

私は、佐谷田地区に住んでいて、小学校・中学校を通してムサシトミヨの生育に関してきました。元来、ムサシトミヨは、きれいな水で自然豊かな環境でしか育たない生き物だと聞いています。しかし、元荒川周辺の住宅地化が著しいように思われます。ムサシトミヨの生育に影響がないか心配です。市では、この点について、どうお考えでしょうか。また、現在、どのような対策をし、今後、こういった形で実行に移していくのかお教えてください。

議席番号8 熊谷東中学校 石井 唯貴 議員

#### ごみの分別について

私の市外に住んでいる親戚の人が「私の地域ではごみの分別がとても細かく、きびしい」と言っているのを聞き、熊谷市ではそれほど厳しくないなと思いました。

なぜ、熊谷市では、あまり厳しく分別をしなくてもよいのですか。また、分別をしなくて、もし有害な物質を出されて一緒に焼却してしまうということはないのですか。お聞かせください。

#### (市長答弁)

梅澤盛佳議員さん、石井唯貴議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

最初に梅澤さんの「ムサシトミヨの保護について」にお答えします。ムサシトミヨは、熊谷市の元荒川上流だけに住んでいる、大変貴重な魚です。湧き水が枯れたり、生活排水が入って川が汚れたりして絶滅したと思われていましたが、元荒川上流では県の水産試験場などが地下水をくみ上げていたため、奇跡的に生き残れました。梅澤さんの生まれる10年以上も前の昭和60年から熊谷東中学校において増殖が始まり、その後、ムサシトミヨをまもる会が発足し、今日まで様々な保護活動が行われてきました。私たちには、これら貴重な自然を将来に引き継いでいく責任がありますので、中学生の皆さんにも協力していただきながら、ムサシトミヨの保護に力を注いでいきます。

次に石井さんの「ごみの分別について」にお答えします。

私たちはこれまで、より便利で豊かな生活を追い求めるなかで、限りある資源を大量に消費し、環境に大きな負荷をかけてきました。熊谷市では地球温暖化の防止に取り組むとともに、家庭のなかから発生するごみを、どのように処理していくかという一般廃棄物処理基本計画を策定し、ごみ分別の徹底によるごみの減量化やリサイクルの推進など、市民と市が力を合わせてさまざまな施策を実施しています。環境問題は、地球規模で考え、自分の暮らしのなかで、できることを実行していくことが何よりも重要と考えています。分別についての石井さんの御意見は、環境について考えるうえで、大切な視点であると思います。

これからも、ごみの分別やリサイクルの推進などにより、環境にやさしいごみ処理を進めていきたいと考えています。

#### (部長答弁)

梅澤盛佳議員さんの「ムサシトミヨの保護について」にお答えします。

ムサシトミヨは、もともと埼玉県内の本庄市や川越市、東京都内の清流などにも生息地がありましたが、湧き水が枯れたり、河川の水質悪化などで次々に姿を消しました。熊谷市の元荒川上流では、県の水産試験場などが地下水をくみ上げて放流し続けたことから、奇跡的に生き延びたとされています。今から20年ほど前に保護センターから下流の約400メートルが、「元荒川ムサシトミヨ生息地」として県の天然記念物に指定され、この周辺の住宅などからの生活排水は、直接、流れ込まないように、排水路が整備されました。しかし、天然記念物区間の下流では、生活排水の流入が、元荒川の水質悪化に影響を及ぼしていると考えられることから、熊谷市では埼玉県と協力し、トイレのみの単独浄化槽から、台所やお風呂などの排水も含めて浄化できる合併処理浄化槽への転換を、通常の補助制度に上乗せして進めています。

これからも、地元の自治会やボランティアの皆さんと一緒に、草刈りやゴミ拾いを行い、ムサシトミヨの住む元荒川の環境を守っていききたいと考えていますので、皆さんの協力をお願いします。

#### (部長答弁)

石井唯貴議員さんの「ごみの分別について」にお答えします。

熊谷市、深谷市及び寄居町のごみは、3つの市町で設立した大里広域市町村圏組合で共同処理しています。現在の処理施設は、ごみを燃やすときに発生するダイオキシン類などを削減し、地域の生活環境に配慮した施設です。熊谷市では、現在、燃えるごみ、不燃ごみ、資源ごみとして「カン、ビン、ペットボトル、紙類」及び、粗大ごみ、有害ごみの8種類に分類し、また、紙類については、さらに「新聞紙、雑誌類、ダンボール、飲料用紙パック、紙製容器包装」の5つに分類し、ごみの収集を行っています。

石井さんから分別についての御意見がありましたが、今後これらを参考にして、大里広域市町村圏組合のなかで、検討していくテーマであると思いますが、現在の分別のルールをしっかりと守っていただくことが大切であり、環境問題への取組の第一歩であると考えています。

○質問番号8 環境部関係

議席番号9 玉井中学校 小川 直紀 議員  
熊谷市のエコ活動について

玉井中学校では、「エコ玉活動」として「エコバッグの製作」や「宿泊体験学習のときのマイ箸、マイバッグの使用」、「花を咲かそう活動」などを行っています。

しかし、玉井中学校だけの活動では熊谷市全体のエコには及びません。そこで、熊谷市の行っているエコ活動について具体的な取組みや、これからの予定などをお聞かせ下さい。さらに、私達が行ってほしいエコ活動があれば教えてください。

議席番号17 別府中学校 大澤 信彦 議員  
環境活動の取組みについて

僕達の学校では、玄関の前に花を植えたり、グリーンカーテンを各教室の前に設置したりして、自然あふれる学校作りに力を入れています。今、地球の環境問題やCO2削減の問題があり、エコや省エネ、植林などの言葉がテレビや新聞でも目立つようになりました。

熊谷市では、ムサシトミヨ保護活動をしたり、僕達の身近な所に別府沼公園を作ったりしました。これらの他にどのような環境活動に取り組んでいますか。また、僕達に参加できる活動はありますか。

議席番号26 大里中学校 田所 実宝 議員  
熊谷市の暑さ対策について

私は熊谷市の暑さ対策の質問をさせていただきます。

今、「あついぞ！熊谷」ということで暑さを考えた活動がたくさん行われています。「あつべえ」というキャラクターを作ったり、各店のオリジナル「雪くま」のコンテストを行ったり、地元の人から観光客の方まで楽しんでいただける素晴らしいものになっていると思います。

しかし、反対に暑さを防ぐ活動とはどのようなことが行われているのでしょうか。私が、今、考えられるものとしては、熊谷駅前のスプリンクラーがありますが、その他はあまり知りません。年々暑さで熱中症に倒れる人も増えています。

何か暑さ予防のための策として、今年の夏はどのようなことを行いましたか。また、今後何か考えていることはありますか。教えてください。

(市長答弁)

小川直紀議員さん、大澤信彦議員さん、田所実宝議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

小川さんの通っている玉井中学校では、マイ箸・マイバックの使用や、花を咲かそう活動など「エコ玉活動」と呼ばれている独自のエコ活動を続けており、こうした取組が評価され、平成21年度には、全日本学校関係緑化コンクールにおいて準特選を受賞し、市長として喜んでいただいております。

また、大澤さんの通っている別府中学校では、玄関前に花を植え、教室にグ

リーンカーテンを設置するなど、自然あふれる学校づくりに力を入れており、熊谷市の未来の環境を考えると、大変心強く思いました。

田所さんの、「あつべえ」や「雪くま」など暑さを利用した活動だけでなく、熱中症を予防したり、暑さを和らげる対策こそが大切であるとの考えは、私の思いと同じであり、様々な暑さ対策を実施しています。

皆さんが生まれた平成9年（1997年）は、地球温暖化を防止するため、先進国の温室効果ガス排出量の削減目標を明確に定めた「京都議定書」に合意し、世界全体での温室効果ガス排出削減の大きな一歩を踏み出した記念すべき年です。

熊谷市では、環境基本計画や地球温暖化対策地域推進計画を策定し、環境問題に力を入れて取り組んでいます。これからも、皆さんと協力しながら、頑張っていこうと考えています。

### （部長答弁）

小川直紀議員さんの「熊谷市のエコ活動について」にお答えします。

始めに、熊谷市で行っているエコ活動についてですが、太陽光発電システムを設置する市民や事業者に対して、補助制度を設けて、自然エネルギーの利用促進に取り組んでいます。この制度は、市民の皆様の意識が高いため、毎年、年度の途中で申込が終了してしまいます。また、緑のカーテン補助制度や緑のカーテンコンテストを実施することで、壁面緑化の普及を図り、夏の暑さの緩和に取り組んでいます。さらに、来年度には、低公害で低燃費の軽自動車を購入された方に対して奨励金を交付し、環境にやさしい自動車の普及に取り組むなど様々なエコ活動に取り組んでいます。次に、皆さんが取り組んでいけるエコ活動についてですが、例えば、自宅では、体調に考慮しながら重ね着により体温を調節し、過度に暖房機器に頼らない生活、いわゆるウォームビズを実践すること、家族がなるべく同じ部屋で過ごすこと、家族がお風呂に続けて入ること、輸送に係るエネルギーの消費を少なくするために、地元の野菜を購入することなど、日常の小さな行動がエコ活動につながります。

東日本大震災の影響により節電が求められている中、玉井中学校の「エコ玉活動」については、全日本学校関係緑化コンクールにおいて表彰を受けるなど、素晴らしい取り組みであります。小川さんも、引き続き、学校や自宅において、できることから積極的にエコ活動に取り組んでください。

### （部長答弁）

大澤信彦議員さんの「環境活動の取り組みについて」にお答えします。

熊谷市では、地球温暖化対策地域推進計画に基づいて、太陽光発電システムの導入、高効率給湯器の導入、エコライフデイの取組などにより、CO2削減に努めています。中学生の皆さんにも参加していただいている

「1日エコライフデイ」では、昨年は、約66000人が参加し、約42トンの二酸化炭素が削減できました。これは、ブナの木約140万本が1日に吸収する二酸化炭素量にあたります。また、毎年5月には、多くの環境団体、企業と協力して、エコライフフェアという環境イベントを実施したり、みどりのカーテンコンテスト、キッズISOプログラムなどに取り組む、環境意識の普及・啓発に努めています。

次に、大澤さんたちが参加できる活動についてですが、熊谷市には「ムサシトミヨ」のほか、江南地区の「ゲンジボタル」、別府沼公園の水生植物など、希少な動植物が生息しており、地元の小中学校、自治会、市民団体の皆さんにより、生息場所の環境を守る活動が行われています。また、吉岡地区や江南地区では「里山を守る活動」が行われており、植樹やイベントなどの活動が、世代や地域を越えて広がり始めています。

これら多くの自然環境保全活動において、ボランティアの参加者を募集しており、市報やホームページ等で案内していますので、是非、大澤さんも参加してみてください。

### **(部長答弁)**

田所実宝議員さんの「熊谷市の暑さ対策について」にお答えします。

「あつべえ」や「雪くま」は、熊谷市を全国に発信する上で、大変有効なキャラクターであり、本年度も、テレビや新聞で数多く取り上げられました。しかし、田所さんの質問にあるように、熊谷市の本当の目的は、暑さを楽しむことだけでなく、夏の暑さから市民の皆さんの健康を守ることや、少しでも快適に過ごせるようにすることです。このための事業として、熊谷駅前に設置した冷却ミストは、熊谷市を訪ねる多くの人や駅の利用者に一時の涼と見た目の涼しさを提供しました。また、身近にできる暑さ対策として、大里中学校でも作っていただいた「みどりのカーテン」を家庭や事業所などに広げる取り組みも行いました。熱中症予防対策としては、小学校単位で気温や湿度を測定し、熱中症の危険度を判定してメール等でお知らせしています。

この他にも、熊谷市は、職員を中心とした「暑さ対策プロジェクトチーム」を作り、クールスカーフの配布、まちなかオアシス事業、まちなか涼しさ体感アート展などに取り組むとともに、中学2年生を対象に、いざという時の知識を学んでいただく「熱中症予防講習」を行い、暑さ対策日本一を進めています。田所さんも、何か良いアイデアがありましたら、是非提案してください。

○質問番号9 産業振興部関係

議席番号6 大原中学校 菊地 黎奈 議員

施設の有効活用について

熊谷ドームは、市民や熊谷市以外の人達にテニスコート、卓球台などいろいろ開放していますが、運動だけではなく違った分野での活用方法もできるものと思います。

市の施設についても、例えば、音楽関係の方々にコンサート会場など、またプロモーションビデオ、映画のロケ地に使ってもらおうということなどをして熊谷市を全く知らない人、興味があまりない人達にあついだけの熊谷だけでなく、いろいろな熊谷の良さを知ってもらえるチャンスだと私は思いますが、どうでしょうか。

議席番号18 別府中学校 片桐 美紀 議員

熊谷市の観光スポットについて

熊谷市では、さくらマラソン・花火大会・うちわ祭などの全国的に有名な大きなイベントが行われています。しかし、それらのイベントに対し、全国的に有名な観光名所はあまりないように思います。熊谷桜堤の他、あまり聞きません。

まちおこしのために、市が広めていこうとしている観光スポットは何ですか。また、どんなところですか。教えてください。

議席番号24 大幡中学校 新 穂乃香 議員

熊谷市コミュニティひろばについて

国道17号と市役所通りの交差点の一角にある土地の半分は、「熊谷市コミュニティひろば」として、以前は、フリーマーケットなどを行っていましたが、現在一般の貸し出しを停止していると聞きました。それはなぜなのですか？私は一般の貸し出しを開放して市民と市民がより多くコミュニケーションがとれる場として、活用したほうが良いのではないかと考えています。

また、熊谷市コミュニティひろばと同じ場所の土地はどうするのですか？整備が半凍結状態になっており、空き地だけが残っています。あんなに広い土地ですが、何も利用しないのは、もったいないと思います。どのように活用していくのか教えてください。

(市長答弁)

菊地黎奈議員さん、片桐美紀議員さん、新穂乃香議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

菊地さんの質問の「施設の有効活用について」は、熊谷ドームのある熊谷スポーツ文化公園には、国体も開催できる陸上競技場の他、西の花園と並ぶラグビー場もあり、社会人や大学のトップクラスの大会だけでなく、毎年、全国高校選抜ラグビー大会も開催されています。今は、2019年に開催される、ラグビーワールドカップの招致を積極的にPRしていますが、菊地さんの質問にあるように、私も市内の施設が、いろいろな分野で活用されれば、熊谷市の知名度が上がるだけでなく、地域の活性化にも結びつくと考えていますの

で、利用の方法にもっと工夫をしていきたいと思ひます。

次に片桐さんの質問の「熊谷市の観光スポットについて」ですが、まつりのまち熊谷として、さまざまな方法で情報発信してきましたが、新たな観光スポットとなった聖天山をはじめとして、市内には由緒ある寺社や自然の景観など、まだ知られていない観光名所もたくさんあると考えています。そうしたところを見つけ出し、PRしていくことも観光の仕事だと考えていますが、より広い視野で名所を見つけるためにも、若い皆さんから見た、魅力的なスポットがあれば、ぜひ教えていただきたいと考えています。次に、新さんの質問の「熊谷市コミュニティひろばについて」は、現在、市民の皆さんに喜んでいただけるような「にぎわいのある施設」の建設に向けて、埼玉県と話し合いを進めているところであります。

### (部長答弁)

菊地黎奈議員の「施設の有効活用について」にお答えします。

熊谷ドームのある「熊谷スポーツ文化公園」は全国規模の大会が開催できるとても立派な施設です。昨年の6月には日本陸上競技選手権大会が開かれ、全国から大勢の観客が来場されました。こうした大会開催は、熊谷市をPRするよい機会ですので、陸上競技場のオーロラビジョンに観光情報を流したり、市内の観光地を巡るバスを運行したりして、PRに努めています。この他、昨年12月には、和太鼓日本一を決める「太鼓祭」が開催された他、映画の「20世紀少年」や「高校デビュー」の撮影も行なわれました。また、「熊谷スポーツ文化公園」だけでなく、旧熊谷市立女子高校や妻沼の坂田医院旧診療所では、映画やドラマ、コマーシャルなど、たくさんの撮影が行われていて、商業観光課にある熊谷フィルムコミッションが撮影を支援しています。みなさんご存じの「熊谷PR映画 あついぞ！熊谷」も情報発信のために制作したものです。こうした取組が、地元の皆さんをはじめ広く知られるよう、これからも機会あるごとに、熊谷市のPRを行い、施設の有効活用も進め、多くの方に熊谷市の良さを知っていただけるように努めてまいります。

### (部長答弁)

片桐美紀議員さんの「熊谷市の観光スポットについて」にお答えします。

熊谷市には全国に誇れる観光名所がたくさんあります。日本三体文殊の一つ、江南の文殊寺、同じく日本三大聖天の一つ、妻沼聖天山、熊谷次郎直実ゆかりの熊谷寺、熊谷桜堤も「日本さくら名所100選」に選ばれています。中でも6月から一般公開されている妻沼聖天山の本殿は、国から重要文化財の指定を受け、7年の歳月をかけて保存修理工事が行われました。250年前の姿がよみがえったこの見事な彫刻は、「左甚五郎」の作であるとの伝承もあり「埼玉の小日光」とも言われています。

また、聖天山は「縁結び」の神様でもあることから、周辺の商店街では「縁結びのまち」をキーワードに、手づくり市や例大祭などにおいでになったお客様を「おもてなし」しています。春に向けて、聖天山周辺を回遊できる「観光モデルコース」を作っているところですので、その時にはぜひ散策してみてください。

今後も、まちおこしにつながるような観光スポットを掘り起こしていきたい

いと考えています。

**(部長答弁)**

新穂乃香議員さんの「熊谷市コミュニティひろばについて」にお答えします。

熊谷市コミュニティひろばの利用につきましては、広く市民の皆さんにご利用いただくことを目的としていますので、フリーマーケットなど、個々の団体が主に営利を目的とした行事には開放しておらず、市の行事や市が後援等を行うイベントの会場として活用しています。

また、このひろばは、熊谷市と埼玉県が所有していますので、二者で共同してにぎわいのある施設の建設に向けて、話し合いを進めているところであり、ひろば北側の用地は、施設建設の際に、一体的に利用することを検討しています。

○質問番号10 産業振興部関係

議席番号5 大原中学校 原 拓也 議員

プレミアム付き商品券について

熊谷市商工会議所および商工会等が発行する「プレミアム付き商品券」について

「プレミアム付き商品券」が一定のショッピングセンターなどに、集中して使われてしまうのではないかと心配です。

せっかく市が企画した事業なので、市内の商店街の活性化に、有効につなげてほしいと思うのですが、どうお考えですか。教えてください。

議席番号12 大麻生中学校 矢木澤 真穂 議員

大きなショッピングモールやレジャー施設について

私は大きなショッピングモールやレジャー施設が熊谷市にはないため、他の町や他県に行っています。そのため、部活動等で休みが少なく行くのにも時間がかかってしまい、ほぼ1日ないと行けません。

今後、熊谷市に大きなショッピングモールやレジャー施設をつくる予定はないのですか。私は熊谷市にもあれば他の町や他県からもたくさん人が集まり、税金面でも熊谷市のためになるかと思えます。予定はあるのでしょうか。お聞かせください。

議席番号25 大里中学校 中村 魁星 議員

農村地帯と市中心部の活性化について

市の活性化について、熊谷市では、農村地帯と市の中心部では、環境が違いますので、市の活性化のためにどのようなことを行っていますか、または、計画をしていますか、重要と思えますので知りたいですし、熊谷市がもっとにぎやかで楽しい市になってほしいと思えます。

熊谷市で、市の農村部の活性化のために行っていること、市の中心部の活性化のために行っていること、また、これから、行おうとしていることが、ありましたら教えてください。

(市長答弁)

原拓也議員さん、矢木澤真穂議員さん、中村魁星議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは副市長及び担当部長からお答えします。

原さん、矢木澤さん、中村さんの質問は、大きくは熊谷市の活性化、特に商業と農業の振興についてということになるかと思えます。

はじめに、商業分野では、熊谷市は、年間商品販売額でさいたま市、川口市に次ぐ、県内第3位の都市です。この内訳として、お客とお店が売買をする小売が7位、問屋とお店が売買をする卸売では2位です。これは、先人達が宿場町としても、その後の商業都市としても熊谷を周辺から人、物が集まる街に発展させてきたことの賜物です。

次に、農業分野では、熊谷市は大消費地の東京に近いという特性を生かした都市近郊型農業となっており農業産出額は県内3位となっています。なかでも、にんじん、やまといも、小麦、大豆は県内トップ、ネギ、ブルーベリーは県内2位と多くの作物で県内農業の重要な部分を占めており、今後も、おいしい食

べ物のたくさん採れるまちとして熊谷市の農業を発展させていきたいと考えています。

今後も、さまざまな課題に取り組みながら、私たちも、原さん、矢木澤さん、中村さんをはじめとする未来の熊谷を担う皆さんとともに、時代がどのように変化しても熊谷が埼玉県内の産業や文化の中心都市であり続けるよう努力して行きたいと考えています。

#### (部長答弁)

原拓也議員さんの「プレミアム付き商品券」についてお答えします。

平成23年度実施のプレミアム付き商品券は販売総額11億円で10月2日から販売開始し13日間で完売しました。

商品券の使える加盟店舗は838店で、うち大型店は28店で、残りの810店は中小の商店でした。前回、平成21年度に販売総額8億8千万円で実施したプレミアム付き商品券は、大型店とその他商店との利用の内訳が、大型店が6割、その他商店が4割でした。この商品券事業の大きな目的は、市内での消費を促すことなので、商品券を中小店舗でしか使えない専用券とすべての加盟店で使える共通券のセット販売にしないで、すべてを共通券にしました。このことは商店街連合会も加わるプレミアム付き商品券発行事業実行委員会が、商品券をより魅力のあるものにしようとしたためです。

こうしたなか、商店街の各店には、個人商店にしかできないお客さんとの対話や、きめこまかなアフターサービスを生かし、お客様を呼び込む工夫をして欲しいというようなお願いをしました。個人商店のなかには、利点を生かしプレミアム付き商品券に合わせてサービスを上乘せするところもありました。

今回のプレミアム付き商品券の利用の内訳などは現在、集計中ではありますが、商店街の活性化に有効な手段となったものと考えています。

#### (部長答弁)

矢木澤真穂議員さんの「大きなショッピングモールやレジャー施設について」お答えします。

全国の地方都市で、自動車の普及を背景として、広い土地が安く取得できる郊外に、大型商業施設が次々と立地し、たいへんな賑わいをみせています。市内でも平成の初め頃から当時は大型と思われていた大型商業施設が建てられましたが、その後、周辺市町においては、それを上回る施設が次々建設され、この傾向は全国的なものとなっています。

この一方で、旧来の市街地では身近な商店が閉店を余儀なくされ、お年寄りなど自動車を利用しない方には買い物も困難な状況になっています。そこで、これからは自動車などに頼らない高齢者にも便利でエコなまちづくりが、必要との考え方に変わってきております。熊谷市では、このような考え方に基づき商業の振興を図ると決めた市街地の活性化を進めております。また、熊谷市には遊園地のようなレジャー施設はありませんが、スポーツ文化公園やさくら運動公園など全国に誇れるスポーツレジャー施設がありますので、これらを活用して楽しんでいただきたいと考えています。

#### (副市長答弁)

中村魁星議員さんの「農村部と市中心部の活性化について」お答えします。熊谷市では、うるおいとやすらぎを感じる豊かな自然を守り、食料生産基地としての農村部と、活気とにぎわいのある市街地をバランスよく発展させるよう様々な事業を行っています。はじめに農村部では、地元で生産した安心安全な農産物を地元で消費するとともに、新たな付加価値を付けて販売しています。また、地元農産物をPRするイベントや都市の住民との交流も進めています。具体的には、直売所や農村レストランで新鮮な野菜や美味しいうどん等を販売したり、「グリーンツーリズム」と言いますが、農村地域で、都市住民が自然や文化、人々との交流を楽しむ事業などを行っています。また、道路の清掃、草刈や花の植栽等を通して、市全体で約5,900回、延べ約124,000人の農村部の皆さんが参加し、地域コミュニティの活性化に効果を上げています。これからも、美しい熊谷の田園風景と、人と人との絆を大切にしている農村の良いところを守りながら、農村部の活性化に取り組んでいきたいと考えています。

次に、熊谷市の中心部の活性化ですが、中心部を特に中心市街地と呼んでいますが、現在、中心市街地では、毎年恒例のうちわ祭、えびす大商業、オ・ドレーなおざね、昨年開催したB級グルメを実施しています。さらに、景観的、歴史的にも貴重な財産である星川を活用し、にぎわいを創出する事業に取り組んでいます。具体的には、商店街が星川周辺の空き店舗を利用して新しいお店をオープンさせたり、生鮮野菜等を販売する星川あおぞら市事業や熊谷市の魅力発見も目的とした宝探し事業も実施しています。

これからも農村部、中心部それぞれの良い所を活かしつつ、熊谷市以外の方にも多く来ていただき、楽しめるような、また、そこに住みたくなるような、魅力ある事業を展開していきたいと考えています。中村さんも、是非、これらの行事に参加してみてください。

○質問番号11 都市整備部関係

議席番号1 荒川中学校 橋立 啓佑 議員  
熊谷駅南口の活性化について

熊谷駅北口付近は人でとても盛り上がっていますが、それに比べ熊谷駅南口付近は、人があまりいなくて盛り上がっていない感じがします。今後、熊谷駅南口の改良予定はありますか。もし活性化について具体的な計画があればお聞かせください。

議席番号16 吉岡中学校 増田 美樹 議員  
歩道や自転車専用道について

私は、歩道や自転車専用道について質問します。

吉岡中学校では、体育館の工事をしているため、今年は合唱コンクールを大里生涯学習センターあすねっつとで行いました。あすねっつには現地集合で、各自自転車で行ったのですが、先生が立っていないのは危ない道もあり、大変でした。私達生徒一人一人は、安全のためにヘルメットをかぶっていましたが、歩道や自転車専用道がない道を通るのは、不安でした。歩道や自転車専用道がない道は、私の住んでいる周りにもまだまだあり、不安です。それは、自転車だけではなく、歩く時も同じです。

最近、自転車事故が増えていると聞きましたが、自転車に乗る人や歩行者が安心して通れるような道を増やすことはできないでしょうか。また、歩道や自転車専用道がない道には、それらを作ることはできないでしょうか。お聞かせください。

(市長答弁)

橋立啓佑議員さん、増田美樹議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

始めに、橋立さんの「熊谷駅南口の活性化について」ですが、熊谷市では、商業や業務系の施設を集める区域、工場を集める区域良好な住環境を確保する区域、農業的土地利用を図る区域などを都市計画で定めています。熊谷駅南口は、新幹線の停車や駅南北通路の開通によって、新たな商業・業務施設の建設が見込まれる地区ですので、健全な商業・業務地となるよう、魅力ある都市空間の誘導を図りたいと考えています。

次に、増田さんの「歩道や自転車専用道について」ですが、熊谷市は、快晴日数日本一で、地形的にも平坦ですので、自転車利用に適した街と考えています。また、熊谷市のまちづくりのビジョンを示した「熊谷市総合振興計画」や「都市計画マスタープラン」などでも、自転車道のネットワーク化を検討することとしています。最近、自転車事故が増えており、警察庁から、原則として自転車は歩道でなく車道を通る方針徹底が報道され、注目されているところですが、熊谷市では、国や埼玉県と協力して、平成21年7月にまちなかの国道17県道、市道の自転車道整備、段差等をなくしていくバリアフリー整備、緑の景観整備などを考える「熊谷市道路空間整備推進委員会」を設置し、自転車に乗る人や歩行者が安心して通れる道づくりについて、検討を進めてきました。一昨年、県道太田熊谷線の一部に自転車通行帯が整備されましたが、これもこの

取組の一環として実施したものです。

これからも、自転車が利用しやすい環境整備を進めていきたいと考えています

#### (部長答弁)

橋立啓佑議員さんの「熊谷駅南口の活性化について」にお答えします。

熊谷駅南口は、昭和58年熊谷駅の改修にあわせて駅前広場を改修し、現在に至っています。しかし、現在の南口駅前広場は、特に朝夕の時間帯、バス・タクシー、自家用車の送迎などが重なり、大変混雑している状況で、学生の皆さんが利用するスクールバスの乗り入れも増えていることから、南口駅前広場の再整備について、検討しているところです。

次に、活性化についてですが、正面口側で実施した、ティアラ21のような再開発事業などの具体的な計画は現在のところありませんが、都市計画法に定められた地区計画制度によって、道路を拡幅整備する基準や1階部分へは、店舗やショーウィンドウを設ける基準などを定め、商業施設や業務施設の建物が誘導できるような、仕掛けづくりは行っています。

また、南口は正面口に比べ、より近い所に戸建ての住宅地が広がっていますので、皆さんがお住まいの住環境を守りながら、熊谷駅南口らしい賑わいづくりに努めていきたいと考えています。

#### (部長答弁)

増田美樹議員さんの「歩道や自転車専用道について」にお答えします。

熊谷市では、平成20年1月に国の「自転車通行環境整備モデル地区」の指定を受けたことから、国、県、市が協力して、まちなかの自転車道整備、バリアフリー整備、景観整備などについて考える「熊谷市道路空間整備推進委員会」をつくり、国道17号・市役所通線・県道太田熊谷線などを自転車道ネットワークの軸として、様々な検討・調査に取り組んでいます。

また、埼玉県では、平成23年3月に「ぐるっと埼玉サイクルネットワーク構想」を策定し、自転車でのおすすめルートとして、熊谷のみどころスポットを巡るルートを紹介したり、案内看板や路面表示などにより、自転車に安心して乗れるような整備を進めています。

自転車道等の通行環境整備につきましては、国・県と連携をとりながら、熊谷駅周辺を中心市街地から取り組みを始め、順次、ネットワークを広げていきたいと考えています。また、安全な自転車走行をしていただくための自転車利用のルール周知やマナー啓発についても、推進していきたいと考えています。

増田議員さんをはじめ中学生の皆さんは、自転車を利用する機会が多いと思いますので、今まで以上に、交通ルールやマナーを守るよう心がけてください。

○質問番号12 教育委員会関係

議席番号4 富士見中学校 安藤 駿 議員

学校の節電対策について

今、電気の問題はとても大きな問題です。

そして、それは昨年3月11日に起こった東日本大震災によりさらに大きな問題となっています。

僕達の学校では、できるだけ照明を消したりして節電をしています。

しかし、これだけではかなりの量の電気を節電しているとは思えません。

例えば、学校の屋上にソーラーパネルを設置して、その学校で使う電気は自分たちの学校で作れるようにしたり、学校にあるコピー機やパソコンなどの電化製品を省エネの物に替えることができたりすれば、かなりの電気を節電できると思います。

学校での節電対策はいったいどうなっているのでしょうか。教えてください。

議席番号14 中条中学校 飯田 希菜 議員

小学校、中学校の防災について

私は、防災のまちづくりについて聞きたいと思います。去年は3月11日の大震災で震度5を体験しました。私の学校の近くの小学校は像が折れてしまいました。そこで熊谷市では小学校や中学校などで、どのような防災を考えていますか。また、どこをどのように防災するのですか。お聞かせください。

議席番号27 妻沼東中学校 飯塚 夕稀 議員

学校の少人数指導について

私たちの学校では数学の授業で少人数指導を行っています。

少人数指導では、集中し落ち着いて学習でき、学力が向上します。

ぜひ、全ての教科でも少人数指導を行っていただきたいのですが、このことについてお聞かせください。

(市長答弁)

安藤駿 議員さん、飯田希菜 議員さん、飯塚夕稀 議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、教育長からお答えします。

はじめに、安藤さんの、学校の節電対策についてであります。昨年3月11日に発生した東日本大震災と、その直後に起きた、福島第一原発の事故の影響により、東京電力管内は、歴史的な電力不足に陥りました。そのため、ここ熊谷市でも、東京電力による計画停電が実施され、電気が使用できないという、かつて無い生活を強いられたことは、記憶に新しいことと思います。この経験をとおり、電気が私たちの日常生活に欠かすことができないものだということを、実感させられました。また、夏場のピークを迎える電力使用量に対応するため、この夏、全国的に「節電」が大きな課題となりました。熊谷市でも、市役所本庁舎において、最大電力使用量を、前年度と比較して29%削減することを目標に、照明機器の4割消灯、パソコン等の使用時間短縮、エレベーターの一部停止、節電ノー残業デーの実施等、様々な取り組みを行ってきました。同様に、市内の小・中学校においても、多くの児童生徒の皆さんにご協力をいただきながら、さまざまな節電の取り組みを行

い、大きな成果をあげてきました。具体的な取組内容については、教育長からお答えをしますが、これからも、引き続き節電対策に努めていきたいと考えていますので、皆さんも、ご協力をお願いいたします。

次に、飯田さんの小学校、中学校の防災についてですが、熊谷市では市の防災計画を見直したり、市民参加で行う総合防災訓練を実施したりして、防災意識を高めるなど「防災のまちづくり」を進めています。その一つとして、小・中学校では、学校施設・設備の点検や修繕をはじめ、災害時に子どもたちが安全で、混乱なく行動できるように、日頃から避難訓練などをおして、災害に対する危機意識を高める取組みを行っています。

次に、飯塚さんの学校の少人数指導についてですが、少人数指導は、多くの学校で実施され、学力向上の有効な手段であるという報告があります。しかし、少人数指導が適している教科と、適していない教科があります。少人数指導が適している教科については、今後も各学校で工夫し、取り組んでいきます。また、熊谷市では、一人一人へのきめ細かな指導をするために、教科の先生の補助をするための学力向上補助員を、全ての小・中学校に配置しています。これからも必要に応じて配置していきたいと考えています。以上です。

#### (教育長答弁)

安藤駿議員さんの、「学校の節電対策について」にお答えをします。はじめに、東日本大震災の発生後、小・中学校で行ってきました節電の取組みは、安藤さんの質問の中にもありましたように、証明の節電を始め、職員室等のエアコンやパソコン等の使用時間の短縮、市役所と同じ「節電ノー残業デー」の実施、ゴーヤ、アサガオなどのツル性の植物によるグリーンカーテンの活用などが挙げられます。中には、節電を呼びかけるステッカーをすべての照明のスイッチに貼り付けるといった、ユニークな取組みを行った学校もありました。このように、各校がそれぞれ工夫して、地道な節電に取り組んだことにより、平成23年4月～9月の電力使用量は、平成22年と比較し、小学校で18%、中学校で16%を削減することができました。これからも、できる限りの節電に努めていきたいと考えていますので、安藤さんを始め、生徒の皆さんにも、引き続きご協力をお願いしたいと思います。

次に、太陽光パネルの設置についてですが、現在、市内6校の体育館の屋上に、太陽光パネルを設置しており、学校で使用する電力の一部をまかなっています。今後新たに建設する体育館にも、同様に設置をしていく予定です。

また、電化製品等の省エネ製品への切り替えについてですが、最近ではLED照明など、省エネ効果の高い製品が数多く販売をされています。すべての学校の電化製品を、同時に省エネ製品に切り替えるということは難しいと考えていますが、老朽化などによる買い替えを行う際には、積極的に省エネ製品を取り入れていきたいと考えています。

#### (教育長答弁)

飯田希菜議員さんの、「小学校・中学校の防災について」2点質問がありましたので、お答えします。まず「防災についての市の考え」についてですが、東日本大震災から10ヶ月を経過しましたが、今なお、

その傷跡は深く、復興に向けた取組も始まったばかりと言え、地震の被害の大きさを改めて感じています。

熊谷市では、地震等の災害から市民の命や生活を守ることを第一に考え、「熊谷市地域防災計画」に基づき、災害対策や救助体制を整えています。具体的には、地域ごとに自主的に対応できる防災組織づくりや緊急時の水や食糧の確保、また、市報やホームページ、くらしのカレンダー等で災害時の対応についてお知らせをするなど、災害に備えるさまざまな取組を行っています。東日本大震災後、教育委員会では「幼稚園及び小中学校地震発生対策ガイドライン」を作り、各学校では、それをもとに学校の防災計画の見直しをするなど、みなさんが安全に避難できるような対策を考えました。

続いて、「どこをどのように防災するのか」についてですが、小・中学校での地震対策として、耐震化工事を行っています。校舎は既に終了をし、体育館についても今進めているところです。

また、みなさんにも、生徒会専門委員会等で、校舎内外や通学路の安全点検を行うなど、防災意識を高めていただいています。さらに、日頃から冷静な行動がとれるようにするため、県内初の取組として、巨大地震発生時における「緊急地震速報を利用した避難訓練」を全小・中学校で行いました。

熊谷市では、これからも、みなさんの安全が確保されるように、地域ぐるみで避難経路や避難場所を整え、防災意識を高めるとともに、「自分の命は自分で守る」ことを最優先した「防災のまちづくり」を進めていきます。

#### (教育長答弁)

飯塚夕稀議員さんの「学校の少人数指導について」にお答えをします。飯塚さんが意欲を持って各教科の学習に取組み、少人数指導の効果を実感してくれていることを、教育長として大変うれしく思います。飯塚さんの学校で行われている数学のように、少人数が学力向上に効果のある教科もあれば、たとえば、保健体育や音楽のように学級全体で学習した方が効果のある教科もあります。また、同じ教科の学習でも、少人数にした方が良い場面と、全体で学習した方がよい場面、これもあります。そこで、学校では、生徒のみなさんにしっかりと学力が身に付くように、教科や学習の場面によって学ぶ人数を工夫しながら授業を行っています。現在、段階的にクラスの人数を減らす取組を進めています。たとえば、小学校1年生から順に40人を35人のクラスにしています。将来的には、中学校の1クラスの人数も減っていく予定です。これによって、さらに一人一人のよりきめ細かな授業ができるようになります。生徒の皆さんも、学習の基盤となる「4つの実践」、特に朝ごはんをしっかり食べて、日々の学習に全力で取り組んで下さい。

## ○質問番号13 教育委員会関係

議席番号23 大幡中学校 代 智彬 議員

学校のエアコン設置について

熊谷が暑いことで有名になるのは良いのですが、やはりあまり暑い中で学習するのも限度があります。市内の生徒の学習の成果を上げるためにも、エアコンの設置は、必要だと思います。

現に高校ではエアコンの設置が行われたそうです。熊谷市の小・中学校でのエアコン設置はどのようになっているのでしょうか？

議席番号30 妻沼西中学校 船越 かれん 議員

学校の暑さ対策について

私は学校の暑さ対策について質問します。 今年の夏はとても暑いものになりました。私の学校では3人の生徒が熱中症になり、救急車で運ばれてしまいました。

「節電」と呼びかけられていますが、電気を使わずにできることもたくさんあると思います。

具体例の一つ目は、熊谷市の全ての中学校に「すだれ」の設置を呼びかけてほしいです。「すだれ」があるだけでもより涼しく、快適に過ごせると思います。

二つ目は、夏限定の給食メニューの検討を考えてほしいです。夏だけ麺類のつゆを冷たくするだけでも、食が細くなる夏を乗り越えられる一つの方法だと思います。これらの方法を呼びかけたり、広めたりするだけで、熱中症は防げると思います。これからの対策を教えてください。

(市長答弁)

代 智彬議員さん、船越 かれん議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは教育長からお答えします。

はじめに、代さんの学校のエアコン設置についてですが、学校の全ての普通教室へのエアコン設置については、小学校は今年度、中学校は来年度を目標に計画的に設置を進めているところです。

次に、船越さんの学校の暑さ対策についてですが、去年は、6月24日に6月の観測史上最高となる39.8度を記録するなど、厳しい暑さが続きました。私はいつも、児童・生徒のみなさんに、より良い環境の中で学習に励んでほしいと考えています。エアコンの設置もそのためです。しかし、東日本大震災による福島第一原発事故の影響で、大規模な節電も余儀なくされました。これからも船越さんのご提案のように「節電」をしながら、学校でできる暑さ対策について検討するとともに、給食についても夏バテしないような栄養面を考慮した様々な献立を考えています。

(教育長答弁)

代 智彬議員さんの「学校のエアコン設置について」にお答えします。学校へのエアコン設置につきましては、全小学校の普通教室への設置工事を現在実施しており、今年の夏には、エアコンを使用できると考えています。また、中学校についても、全普通教室への設置に向け、現在設計を進めてお

り、来年度工事を実施する予定ですので、少々お待ちください。

**(教育長答弁)**

船越かれん議員さんの「学校の暑さ対策について」にお答えします。

船越さんが例としてあげている「すだれの設置」も良い考えの一つだと思います。

熊谷市では、今年度学校の暑さ対策として、市内全小学生へのクールスカーフの配布や、市内全中学2年生を対象とした熱中症予防講習を実施するとともに、みどりのカーテン事業を行いました。

みどりのカーテンは、建物の表面温度を下げる効果はもちろんですが、見た目にも涼しさを味わうことができると考えます。

現在、先程もお答えしましたとおり、小・中学校へのエアコン設置を進めていますが、エアコンに全面的に頼ることなく、扇風機と一緒に使うことにより、冷房効果が高められるものと考えています。また、「夏限定の給食メニュー」についてですが、夏の暑い時期には、食中毒の心配もありますので、国の基準で、生で食べる野菜や果実以外の食品は、加熱しなければならないこととなっています。

夏バテを起こさず、熱中症にもならず、生徒の皆さんに喜んで食べてもらえる給食にしたいと思います。

熱中症にならないためには、給食を残さず食べることも大切ですが、適切な睡眠や運動などの基本的な生活習慣が大切であると考えています。